

# 漁港は魚の保育園

http://www.gyokou.or.jp/

# 漁港漁場月報

平成23年3月15日 発行  
 毎月 1回15日発行  
 編集兼 社団法人 全国漁港漁場協会  
 発行人 田中潤児  
 東京都港区赤坂1-9-13三會堂ビル8階  
 電話 東京(5114)9981  
 定価 1部 70円  
 (会員の購読料は会費の中に含む)

## 漁村の活性化とは何か

### 水産庁がシンポジウム開催

## 6次産業化や都市漁村交流など

水産庁は「漁村の活性化」をテーマにしたシンポジウムを9日、東京・芝公園の東京コンベンションセンターA・P浜松町で開いた。はたして未来大学の長野章教授や近畿大学の日高健准教授が6次産業化によるブランド化や都市漁村交流などについて基調講演を行ったほか、様々な取り組みを行う各地の漁協が事例報告を行った。

水産庁の橋本牧漁港漁場整備部長は「地域の人々が地域の持つ価値を客観的に評価し、地域全体で愛情を持って育て、新しい視点でアピールし続けていくことが漁村を活性化する上で重要」と冒頭挨拶した。

長野教授は6次産業化を道内23地域で推進する「北海道マリンビジョン」の取り組みなどを紹介。歯舞地区での具体例を示し、「長期的な目標を設定し、P D C A (計画・実行・評価)のサイクルを繰り返す」と述べた。

また、「地域所得を増やすことが最終的な目的」と指摘し、「町民1人あたりの所得を指標とした地域ごとの比較分析などを行った」。

6次産業化に向けた課題として①基盤整備の必要性②川上から川下までの垂直情報の提供③情報の国際化を挙げた。

基調講演に続き、北海道厚岸地域川尻敏治氏、厚岸漁協市場部長、長崎県対馬地域(宇津井千賀志氏、上対馬町漁協・指導漁業士)、北海道根室市落石地域(長山和雄氏、落石漁協専務)、沖縄県竹富町小浜島細崎地域(比嘉誠氏、大城洋一氏、細崎まゝる新鮮隊)がそれぞれ事例を報告した。

その後、基調講演、事例報告を踏まえ、活発なパネルディスカッションが高知大学副学長の受田浩之副学長の進行で行われた。



講演する長野教授  
 長野章教授は6次産業化を道内23地域で推進する「北海道マリンビジョン」の取り組みなどを紹介。歯舞地区での具体例を示し、「長期的な目標を設定し、P D C A (計画・実行・評価)のサイクルを繰り返す」と述べた。

### 水産関係公共事業の評価技術検討会

#### 水産庁が第2回

水産庁の第2回水産関係公共事業に関する事業評価技術検討会(座長・岡安章夫東京海洋大学教授)が、3月1日に水産庁会議室で開催された。水産庁が行う事前評価(事業に着手するに当たっての評価)、期中評価(継続事業で評価後5年

水産庁の第2回水産関係公共事業に関する事業評価技術検討会(座長・岡安章夫東京海洋大学教授)が、3月1日に水産庁会議室で開催された。水産庁が行う事前評価(事業に着手するに当たっての評価)、期中評価(継続事業で評価後5年

### 漁港漁場協会事務担当者連絡協議会を開催

第52回漁港漁場協会事務担当者連絡協議会が2月14日、東京・大手町のコープビルで開催され、来賓の橋本牧水産庁漁港整備部長、講師の田中潤児全国漁港漁場協会会長が「来年度予算案を作成するにあたって考えていること」と題し、次の内容の講演があった。

「新年度の施策のポイントは二つあり、ひとつは「資源を増やす」ことだが、魚がどこで生まれどこで育つかという成長段階に合わせながら、全体的に魚を増やす方向で進めていく。二つ目は競争力をつけるために衛生管理を進める」ことで、特三の13漁港の衛生管理を一挙に進めていくこと、全体の底上げを図りたい。生産者が頑張る基盤づくり、輸出を含む新たな水産物流通に対応可能な生産地づくりとして衛生管理に力を入れてい

### 都市との関係再構築の方法と可能性

#### 漁港漁場協会女性役員セミナー

全国漁港漁場協会は3月3日午後1時から東京・新宿区の早稲田大学において、早稲田都市計画フォーラムと共催で平成22年度漁港漁場協会女性役員セミナーを開催した。

このセミナーは、平成12年度から毎年継続して行っているもので、漁村づくり、地域づくりには漁村の暮らしに主体的に関わる女性の意見や力が必要不可欠であることから、その力を一層発揮できるようにすることを目的に実施している。

これまで、漁村づくりにおける女性の役割、地域資源の活用と女性の取組等についての意見交換や現地視察などを行ってきた。

昨年は、これまでの経験やそれぞれの地域の現状を踏まえ、今後の漁港・漁場・漁村の整備とその利用のあり方や関連施策について意見交換を行うこと、今回は早稲田都市計画フォーラムとの共催セミナーとなった。



女性の視点から様々な事例を紹介

その後、富田氏をコーディネーターに乾政秀(株)水士舎代表、大澤信一(株)日本総研主任研究員、安井浩和(早稲田大隅通毛商店会)、関さん、川名さん及び喜田さんをパネリストに漁村活性化の方法論としての直販事業の可能性と題してパネルディスカッションが行われた。

各県漁港漁場協会女性役員の出席者は次の通り(肩書き・敬称略)。

熊谷ヒサ子(青森) 盛合敏子(岩手) 尾山春枝(富山) 川名正子(神奈川) 酒井絹枝(広島) 西野妙子(山口) 喜田ヒサ子(愛媛) 奥本冨子(上野敏恵(高知) 宇都鈴江(鹿児島) 新立弘子(沖縄)

東北地方太平洋沖地震 関係者の一日も早い復興を (社)全国漁港漁場協会会長 田中潤児

三陸沖において発生した未曾有の大地震及び大津波により、被害に遭われた皆様に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、未だ安否の確認がとれない皆様のご無事を心より祈っております。

想定以上の大津波が来襲したため沿海部の被害が甚大で、多くの漁業者が犠牲になったほか、水産都市、漁村に壊滅的な被害が生じています。あまりに大きな災害のため被害の全容は現時点では不明ですが、この復興のためには国をはじめ関係県・市町村及び関係する団体が密接な連携を取り、力を合わせる必要があります。

全国漁港漁場協会としても、一日も早い復興に向け、必要な支援、要請活動等に全力で取り組みますので、関係者の皆様におかれましてはご協力を賜りますようお願い申し上げます。

先ず、フォーラム幹事でもある富田宏(株)漁村計画代表による都市住民と漁村住民の「食」や「流通・直販」を通じた連携に焦点をあてた議論を進める旨の趣旨説明と関いずみ東海大学准教授による

その後、富田氏をコーディネーターに乾政秀(株)水士舎代表、大澤信一(株)日本総研主任研究員、安井浩和(早稲田大隅通毛商店会)、関さん、川名さん及び喜田さんをパネリストに漁村活性化の方法論としての直販事業の可能性と題してパネルディスカッションが行われた。

その後、富田氏をコーディネーターに乾政秀(株)水士舎代表、大澤信一(株)日本総研主任研究員、安井浩和(早稲田大隅通毛商店会)、関さん、川名さん及び喜田さんをパネリストに漁村活性化の方法論としての直販事業の可能性と題してパネルディスカッションが行われた。

その後、富田氏をコーディネーターに乾政秀(株)水士舎代表、大澤信一(株)日本総研主任研究員、安井浩和(早稲田大隅通毛商店会)、関さん、川名さん及び喜田さんをパネリストに漁村活性化の方法論としての直販事業の可能性と題してパネルディスカッションが行われた。

その後、富田氏をコーディネーターに乾政秀(株)水士舎代表、大澤信一(株)日本総研主任研究員、安井浩和(早稲田大隅通毛商店会)、関さん、川名さん及び喜田さんをパネリストに漁村活性化の方法論としての直販事業の可能性と題してパネルディスカッションが行われた。

# 認証制度活用で魚価向上を

## 漁港漁場の品質・衛生管理対策技術検討会

第2回漁港漁場の品質・衛生管理対策技術検討会（水産庁主催）が、2月23日、水産庁会議室で開催された。

昨年12月の第1回検討会において議論された生産者に喜ばれる認証制度の構築、市場段階でのトレーサビリティは不可欠であり、近隣漁港からの陸送品の取扱い、市場内における衛生管理が徹底された魚とその他の魚の差別化、価格への反映、ランニングコストの維持

## 真鶴・小田原漁港など見学

### 静岡県漁港漁場協会が現地研修会

訪問し現地関係者と今後の対応など意見交換を行い、本県水産協会の振興に寄与することが目的。会員、関係機関、団体の16名が参加し、静岡県のいとう漁協、とつ漁協、小田原市公設市場で、小田原特定漁港整備事業、漁港海岸整備事業及びその進捗状況の説明を受け、事業効果、今後の事業展開について伺った。

小田原市公設市場では、市場の衛生管理と水揚げから選別までのライン説明を受け、施設の見学をした。市場では冷海水装置が完備され、鮮度保持に努めている。



訪問し現地関係者と今後の対応など意見交換を行い、本県水産協会の振興に寄与することが目的。会員、関係機関、団体の16名が参加し、静岡県のいとう漁協、とつ漁協、小田原市公設市場を訪問した。

静岡県漁港漁場協会（会長・清水泰焼津市長）は、例年研修事業の一環として行っている漁港漁場現地研修会を2月17日に実施した。

水産業を取りまく環境は依然として厳しく、漁協経営が先の見えない状況にあることから、基盤となる漁港漁場の厳しい状況を踏まえた現下のニーズに対応し得る施策が不可欠であり、これによりそれぞれ地域（地元）の活性化を図ることが重要と考え、共通課題を有する漁港漁場漁村を

担当者39名が参加した。静岡県経済産業部水産課の日向彰局長が挨拶し、水産庁漁港漁場整備部計画課企画係長の松田定勝氏が漁港・漁場の漁村の置かれている状況と役割、平成23年度水産基盤整備事業予算の概算決定の概要を説明した。次に、同部防災漁村課海岸実施係の中村元太氏が、海岸行政・漁港・海岸事業の現状と対策、津波対策について説明を行った。



実務研修会の様子

持、老朽化している施設の整理と実行方策等の主な意見を踏まえて、今後の対策の指針となる「漁港漁場における品質・衛生管理対策」について（骨子案）（別掲）が示された。

この中で、品質・衛生管理に取組む意義・必要性として、水産物の品質を客観的に評価することが可能となることから、品質が安定し消費者に対する信頼性が向上する。こうした消費者目線に立った取組みを基本とする。

一、現状とこれまでの取組（省略）  
二、課題（省略）  
三、漁港漁場における品質・衛生管理対策  
一、漁港漁場に求められる役割  
（一）漁港漁場の位置づけ  
・漁港漁場は、漁獲から食卓までのサプライチェーンの入口  
・水産物は、いったん鮮度が低下した場合、その後の流通過程で鮮度の回復は困難

に、更にこれを活かした販路拡大、ブランド化等の意欲的な取組の展開で、産地競争力を高めることができる。展望を示している。

また、今後目指していかなければならない輸出のための厳しい衛生管理基準への合致、生産段階での品質・衛生管理、消費者に対する産地情報といった新しい視点も必要であると指摘している。

品質・衛生管理基準にについては、目指す品質・衛生管理のレベルが明確

水産庁は水産政策審議会「第26回漁港漁場整備分科会」を2月28日、東京・霞ヶ関の農林水産省で開いた。

鳥根県出雲市境川漁場の区域の変更に係る認可申請についての諮問のほかに、

（一）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（二）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

## 漁港漁場における品質・衛生管理対策（骨子案・抜粋）

（一）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（二）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（三）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（四）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（五）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（六）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（七）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（八）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

## 境川漁港の区域変更など諮問

### 水政審が第26回漁港漁場分科会

水産庁は水産政策審議会「第26回漁港漁場整備分科会」を2月28日、東京・霞ヶ関の農林水産省で開いた。

鳥根県出雲市境川漁場の区域の変更に係る認可申請についての諮問のほかに、

（一）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（二）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（三）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（四）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（五）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（六）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

（七）品質・衛生管理に取組む意義・必要性  
・品質・衛生管理の取組みにより、水産物の品質を客観的に評価すること

## 漁港往来

2月1日（火） 青森県漁港漁場協会 専務理事原口健二氏  
2月9日（水） 岩手県漁港漁場協会 専務理事船越稯氏  
2月14日（月） 鳥取県漁港・漁港協会書記賀史子氏

2月15日（火） 青森県漁港漁場協会 専務理事原口健二氏、同協会総務課長 田中会長及び福田業務課長は和歌山県へ出張

2月17日（木） 全国漁港漁場協会 田中会長及び福田業務課長は和歌山県へ出張

自2月1日 至2月28日 日（月）

富山市 農林水産部 農業水産課水産漁港係長谷井隆彦氏、同課水産漁港係技師 森大祐氏